

平成26年8月 短期市場概況

上田八木短資株式会社
TEL 03-3270-1711(代)

(概況及びインターバンク市場)

8月の日銀当座預金残高は月初152兆円台から始まり、法人税揚げ(4日)や国債発行等により月央に147兆円台まで減少したが、日銀による国庫短期証券・国債買入オペ等で増加基調を辿り152兆600億円(前月末対比△6,200億円)で越月した。マネタリーベースの月末残高は、前月末から3,065億円増加の243兆4,929億円となった。
無担保コールON物は0.06%台の出合いが中心であったが、試し取りによる0.12%台の取引が多く見られた。このため、無担保コールON物加重平均金利は0.07%台をつける日もあり、月を通して0.066~0.074%で推移した。ターム物は1~2W物で0.117~0.118%、1M物で0.118%近辺の出合いが中心であった。
7・8日に行われた日銀金融政策決定会合では、金融市場調節方針の現状維持が全員一致で決定され、景気判断は「緩やかな回復を続けている」と、11か月連続で据え置かれた。また、新発10年国債(334回債)の利回りは今月に入り0.50%を下回り、28日には0.485%と2013年4月8日以来、約1年4ヶ月ぶりの低水準をつけた。

(CP市場)

8月のCP(短期社債)月末残高は、17か月ぶりに前年同月比プラスで15兆5,354億円(前年同月比+3892億円)となり、2か月連続で15兆円台となった(前月比+1,939億円)。
一般事業法人では、久しぶりに発行を行った企業も散見された。一部の企業では、CPIによる資金調達を 선호する動きもあり発行増となった。また、各業態ともに若干増加する動きとなっていた。

発行レートの変動については、足元現先レートの高止まりが影響したことも有り、全般的に上昇地合いとなった。最上位格付け銘柄では0.07%台後半から0.099%での出合い。一般銘柄(1格)についても0.09%台前半から0.012%台前半での出合いであった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格)出合いなし。一般事業法人(a-1格)0.0960~0.1230%。
その他金融銘柄(a-1格)0.0920~0.1700%。

CP買入オペは、5日・18日・25日と3回実行され、各回4,500億円にてオファーされた。

5日のオペでは、応札可能銘柄も多くディーラーの売却ニーズが強まり、按分・平均落札レート共に前回比で上昇した。18・25日のオペにおいては、ショートターム物等の売却ニーズが強く上昇地合いとなった。25日の按分・平均落札レートは0.093%・0.095%となり、ともに年初来で最も高いレート水準に上昇した。

【月末オペ残高:2兆2,627億円】

(有担保コール市場) (億円)			
市場月中平均残高	平成26年8月	(前月比)	(前年同月比)
コール全国	96,272	△ 585	△ 25,415

(無担保コール市場) (億円)						
月中業態別平均残高			業態	取手		
(前年同月比)	(前月比)	平残		平残	(前月比)	(前年同月比)
225	1,181	1,749	都銀等	39,329	9,925	9,683
△ 230	△ 488	14,921	地銀	2,976	419	△ 1,115
1,848	2,379	5,142	信託	9,516	△ 564	4,103
4,708	179	15,101	投信	0	0	0
331	502	792	外銀	4,071	△ 556	1,066
604	1,899	5,659	第二地銀	29	29	28
1,850	3,002	7,795	信金	0	△ 3	0
1,656	563	5,665	農林系	1,143	515	1,143
56	246	275	証券・証金	12,090	△ 737	△ 1,447
2,048	△ 1,526	4,713	生損保	0	0	0
589	1,563	8,903	その他	1,561	472	224
13,685	9,500	70,715	合計	70,715	9,500	13,685

(債券レポ市場)

8月の足許GC取引は0.04~0.09%台と前月同様ワイドレンジでの出合い。月末には短国買入オペが1兆7,500億円と大幅に減額されたものの足許GC取引レートへの影響は限定的であった。またターム物については前月に引き続き1M物程度で0.05%台とやや低めの水準で取引された。

SC取引では各年限カレント近辺の銘柄や10年300~330番台の銘柄に引合が多く見られた。5年118回債は月を通してビッドが多く見られたが、ON物で0.03~0.08%近辺と甘めのレートでの出合いが続いた。10年334回債はリ・オープン後、ON物でプラス圏内まで緩んだが月末には再び0.00%以下の水準までタイト化した。9月限チーペスト銘柄の10年317回債は月を通してビッドニーズが

(TDB市場)

8月の国庫短期証券市場は1日に3兆円の買入オペが実施され、応札倍率が約1.4倍(前回2.4倍)と需給の良さが確認されたことを受け順調にスタートした。その後も6日の6か月物入札が最高落札利回り0.0199%と強い結果となり、セカンダリー市場で0.01%付近まで買い進まれるなど月前半は非常に堅調な地合いであった。その後、高値警戒感も出て月後半にかけて一時レートは0.03%台まで上昇する場面もあったが、日銀がオペ金額を3兆円に増額したり、逆に1.75兆円減額するなど市場の需給に合わせた対応を取ったこともあり急激なレート変化は治まった。ただ月末にはオペ金額の減少にもかかわらず平均利回り較差が▲0.1BPとの結果となるなど、需給の良さが確認されての越月となった。

資金需給実績 (億円)		
	8月中	前年同月中
銀行券要因	△ 3,059	△ 2,342
財政等要因	△ 164,410	△ 120,876
一般財政	19,141	23,637
国債(1年超)	△ 92,654	△ 97,397
発行	△ 118,003	△ 120,247
償還	25,349	22,850
国庫短期証券	△ 92,954	△ 58,945
発行	△ 312,573	△ 314,501
償還	219,619	255,556
外為	△ 951	7,807
その他	3,008	4,022
資金過不足	不 167,469	不 123,218
準備預金増減	△ 571	32,527
金融調節(除く貸出支援基金)	167,430	157,619
国債買入	65,388	67,692
国庫短期証券買入	105,003	75,002
国庫短期証券売却	0	0
国債買現先	0	0
国債売現先	0	0
共通担保資金供給(本店)	0	0
うち固定金利方式	0	0
共通担保資金供給(全店)	△ 4,937	11,331
うち固定金利方式	△ 4,937	11,331
CP買現先	0	0
手形売出	0	0
CP等買入	647	623
社債等買入	488	1,287
ETF買入	926	1,579
J-REIT買入	16	2

(出所:日本銀行HPより)

金融調節 (億円)		
	8月中	前年同月中
被災地金融機関支援資金供給	△ 101	103
貸出	0	0
国債補完供給	0	0
金融調節(貸出支援基金)	0	△ 16
成長基盤強化支援資金供給	0	0
貸出増加支援資金供給	0	△ 16

日銀主要勘定(月末残高) (億円)		
	8月末	前年同月
銀行券	868,339	838,246
国庫短期証券買入	422,081	236,367
国庫短期証券売却	0	0
国債買現先	0	0
国債売現先	0	0
共通担保資金供給(本店)	0	0
うち固定金利方式	0	0
共通担保資金供給(全店)	99,661	201,830
うち固定金利方式	99,661	201,830
CP買現先	0	0
手形売出	0	0
CP等買入	22,627	21,101
社債等買入	32,735	31,018
ETF買入	31,895	21,259
J-REIT買入	1,545	1,382
被災地金融機関支援資金供給	3,522	4,060
貸出	46	0
国債補完供給	0	0
貸出支援基金	167,845	65,348
成長基盤強化支援資金供給	34,373	33,845
貸出増加支援資金供給	133,472	31,503
米ドル資金供給(百万米ドル)	1	0
成長基盤強化支援資金供給(百万米ドル)	10,620	4,980

-
- ・本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
 - ・有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。
 - ・記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第 243号

大阪本社 〒 541-0043 大阪府中央区高麗橋 2丁目 4番 2号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1丁目 2番 3号